

キビタキの第2回繁殖例

鈴木祥悟¹・由井正敏¹・中村充博¹

キビタキ *Ficedula narcissina* は、日本には夏鳥として渡来し、森林地帯に数多く生息している種類である。ヨーロッパで繁殖する近縁のマダラヒタキ *Ficedula hypoleuca* では、第1回繁殖に成功したつがいのうち、少数のものが第2回繁殖を行なうようであるが、本種キビタキの一繁殖期の繁殖回数については意外に知られていない (Dementev et al. 1954, 山階 1980)。

今回、岩手県の北上山地にある当支所の姫神鳥獣試験地で、キビタキが一繁殖期に2回繁殖したと思われる事例を観察したので、その概要を報告する。

報告にあたり、調査に協力いただいた(株)地域計画事務所ネクサスの伊達功、佐々木智雄の両氏、試験地の使用に際しお世話になった青森営林局盛岡営林署の関係各位ならびに有益なご助言をいただいた日本野鳥の会研究センターの金井裕氏に感謝申し上げる。

姫神鳥獣試験地は、岩手県盛岡市の北東約20kmに位置し、標高750m、植栽後30年程度経過した樹高15m程のカラマツ壮齢人工林である。当研究室では、ここの25haの区域を対象として、1987年秋期にカラ類用巣箱40個とキビタキ用巣箱(図1, 図2)を10個設置し、翌1988年~1991年のあいだ、4月中旬から8月上旬にかけて、1週間程度の間隔で継続的に利用状況を調査している。

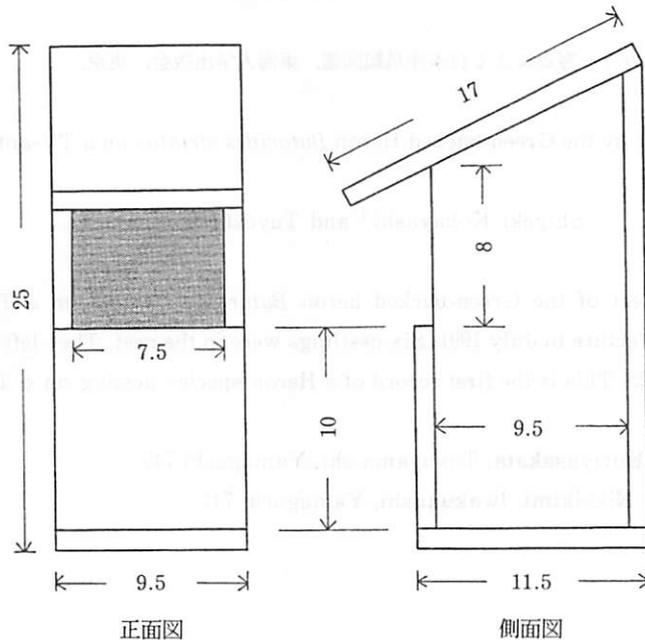


図1. キビタキ用巣箱の模式図。

注. 数字の単位はcm.

1992年11月30日受理

1. 森林総合研究所東北支所. 〒020-01 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷 72



図2. キビタキ用巣箱の設置状況.

ヘビなどの天敵による被害を防ぐため、塩化ビニール製パイプの支柱に取りつけてある。

当調査区で最初にキビタキが巣箱を利用しているのを確認したのは、1991年5月30日の巡回時で、キビタキ用巣箱に3卵生みこまれていた。その後、6月7日に巡回したときには5卵になっており、6月17日にヒナが5羽いるのを確認したが、6月24日には巣内は空になっていた。キビタキは、抱卵日数が12~13日、ヒナの在巣日数が12日（羽田 1986）であるので、5月28日に初卵を生み5卵になった6月1日から抱卵をはじめたとすると6月24日あたりが巣立ち予定日となる。したがって、ヒナの巣立ちの場面は確認できなかったが、巣立ちに成功したことは十分考えられる。

翌6月25日の巡回時には、先の巣箱から100m離れた地点に設置してある同型のキビタキ用巣箱に

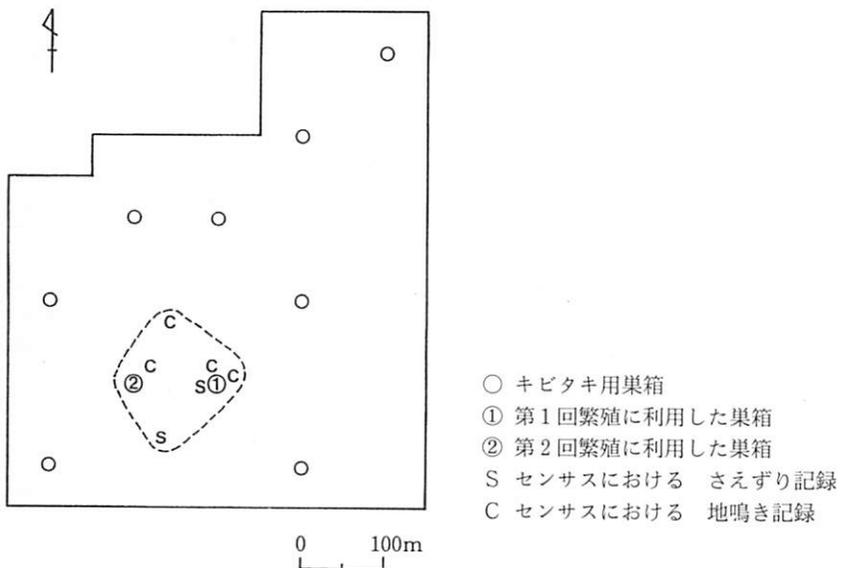


図3. キビタキが繁殖に利用した巣箱の位置となわばり記図法センサスにより推定したキビタキのなわばり域（破線で囲まれた部分）。

巣材が運びこまれているのを確認した。6月29日に2卵、7月5日には4卵になっており、7月15日と7月22日の巡回では4羽のヒナがいるのを確認した。この場合、初卵日が6月28日で7月23日あたりが巣立ち予定日となる。7月29日に巡回した時には巣内はすでに空になっていた。

当調査区の繁殖期の鳥類の生息つがい数については、なわばり記図法センサスにより明らかにしており、キビタキは1991年には繁殖期を通じ1つがい生息していただけで、利用された2個の巣箱がこのつがいのなわばり内にあること(図3)、また、前述のように2回の繁殖時期が重複していないことから、同一つがいが1繁殖期に2回繁殖したものと考えられた。なお、キビタキは、当調査区では1991年以前にも1989年になわばりをもったが、このときには巣箱での繁殖は行なわなかった。

引用文献

- Dementev, G. P. et al. 1954. Birds of the Soviet Union. VI. Sovetskaya Nauka, Moskva
 羽田健三編. 1986. 鳥類の生活史. 築地書館, 東京.
 山階芳麿. 1980. 日本の鳥類と其生態第2巻. 出版科学総合研究所, 東京.

Two broods of Narcissus Flycatchers *Ficedula narcissina* in one breeding season

Yoshinori Suzuki¹, Masatoshi Yui¹, and Mitsuhiro Nakamura¹

We observed a pair of Narcissus Flycatchers *Ficedula narcissina* using nest boxes in the Himekami experimental forest of Iwate Prefecture. It was suggested that the pair reared two broods in one breeding season.

1. Tohoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute. Nabeyashiki 72, shimokuriyagawa, Morioka-shi, Iwate 020-01